1 基本	2 ローン
3 設計	4 仕様見積り
5 インテリア	6 アフターメンテナンス

和室の室礼で豊かな暮らし

Weekly HABITA 077

家ができて、実際の暮らしがスタートすると、インテリアコーディネートとはまた違った、日々の暮らしの中での変化が出てきます。たとえば、季節の花を生けたり、行事に応じて小物を飾ったりといったことです。こうしたちょっとした飾りつけをすることを、「空間をしつらえる」と言います。季節を感じる「しつらい」やおもてなしをする代表的な場所としてあげられるのが、床の間です。空間に彩りが増し、暮らしが豊かになる和室の「しつらい」について、今回はお話しましょう。

連載

キニナルマドリ
くらしのニュース
住まいのオーダーメード館403

和室の室礼（しつらい）で豊かな暮らし

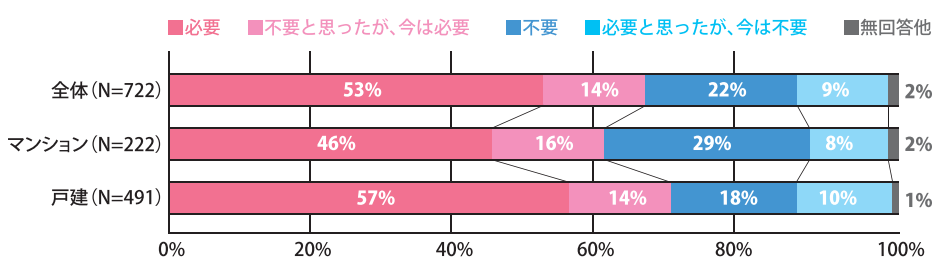
あなたの生まれ育った家には、和室がありますか？実家の和室と言われて思い浮かべるのは、畳の続き間に、床の間、仏壇、ちゃぶ台、座布団、ほの暗い空間にい草の香り…といったところでしょうか。日本人なら容易に想像ができるでしょう。日本の住宅にあたり前のようにあった和室が、今、少しずつ変化してきています。新築マンションでは、和室がない物件が年々増えており、一戸建ての住宅でも全て洋室という家もめずらしくなくなってきました。ライフスタイルが欧米化している現代人にとって、和室はもはや不要な空間という意見もあります。

しかし一方で、統計を見ると、和室への志向は世代を超えて依然根強いものがあります。戸建とマンションの住宅購入者を対象にしたアンケートでは、住まいに和室は「必要」と回答した人が53%。「不要」は22%。和室のニーズは戸建住宅の方がやや強い傾向にあるものの、全体として必要と感じている人は過半数を超えています。ところが、和室を必要と感じている人に対して「どのような和室が必要か？」という問いを投げかけたところ、その回答結果は興味深いものがあります。「押入が必要」の回答が全体で81%を占め、「タタミさえあればよい」という37%を大きく上回っています。重複回答もありますが、この結果をみると、「部屋として独立している和室には押入れが必須」で「和室という部屋としては必要ないが、タタミコーナーなどのスペースがあればよい」という傾向が伺えます。反対に少数派なのが、「床の間、仏壇置場が必要」という意見です。

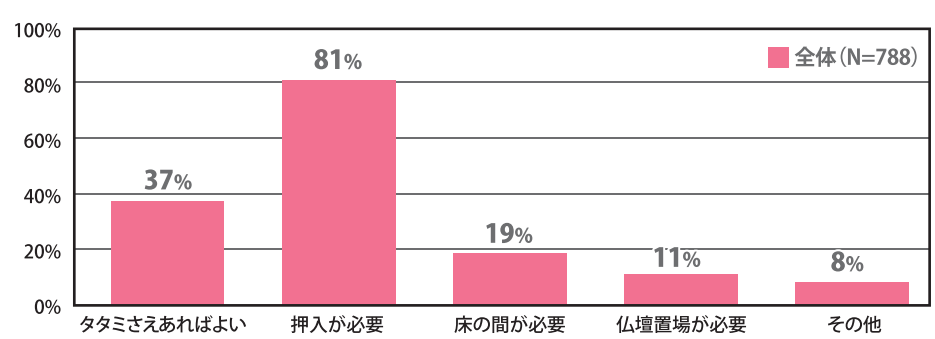
マンションやアパートの集合住宅では居室数が限定されるため、必要最低限の部屋を残していった結果、床の間や仏間などのある和室は消失し、使い勝手の良い洋室が好まれるようになりました。さらに、核家族化も進んでいるため、「仏間や床の間がない家なんて…」と反対する家族とは同居していないことが多く、和室離れという状況が増えていきました。こうした状況に加えて、床の間に何を飾ればよいのか分からない、和室のマナーが分からないといった人が増えているのが現状です。住まいを考える上で、使い勝手や利便性を追求することは否めませんが、和室離れが危惧されている中で、和室が必要と感じている人は、思いのほか多いものです。床の間の活用や、季節の花や、祭事のしつらえなどを知っておくことで、少しでも生活にゆとりが出て、豊かになるでしょう。

見本

■ 和室のニーズについて



■ どのような和室が必要か（前問にて「必要」「今は必要」との回答者・複数回答あり）



社団法人 日本住宅建設産業協会　平成18年「住宅に関するニーズについてのアンケート調査」より

和室の室礼（しつらい）で豊かな暮らし

美しい室礼

「しつらい」とは、家具調度品を置いて部屋を装飾することです。「設い」と書くことが多いようですが、平安時代から用いられてきた日本独自の考え方からすると、礼を尽くして、室をととのえるという「室礼」と書いた方がしっくりくるような気がします。行事や迎える人に合わせて、家具調度品をコーディネートしていたのです。礼節を重んじる日本人らしく、かつ合理的な考え方です。春夏秋冬という時の変化と折々の場面に合わせて調度を整え、生活を組み立てて暮らしてきたのです。季節に応じて座布団や寝具も変化し、軽くてさらっとした夏物が冬に向かって徐々に厚みを増していきます。床の間の掛軸も変わり、部屋に飾られる花は日毎に変化します。年始め、桃の節句、端午の節句というように、伝統的な年中行事でもそれぞれの室礼によって、室内が変ります。

一方、外国では、寝室や食堂、来客をもてなす部屋など個々の部屋の使用目的は初めから決められており、家具や調度品は大きく立派で重々しく、一度据えたら場所を変えることはありません。インテリアは、美しいこと、住む人の気持ちが伝わることが大切です。日本の伝統の室礼からは、物の美しさと共に、教養や感性が伝わってインテリアを生き生きとしたものに仕立てます。

魂の入った家、床の間

トコという日本語は、頑丈でビクともしない、絶対に変わらないもののことです。「とこしえ（永久）」「とこよ（常世）」などと使われるように、「永遠」という意味を持つ言葉です。

古代より、日本人は大家族で大きな屋根の下で暮らしていました。家長が休む所だけが仕切られており、この場所が床の間の始まりと言われています。位の高い人、殿様のような人が居るということから、殿の間とも呼ばれており、広い所では12帖もありました。

戦前まで木造建築（数寄屋建築）のつくりは標準化しており、大工の棟梁は必ず弟子にもこの標準化した工法を守らせました。従って、標準化した住宅は一定の品質を保つことができ、日本の家は世界一と言われるほどになったのです。しかし、若く想像力豊かな弟子は、自分で設計・施工をしたがりました。そこで、棟梁は弟子に床の間だけは自由にやらせました。弟子は嬉しさから全力で取り組み、世界にふたつとない床の間をつくろうと腕をふるいます。つまり、床の間には大工の魂が宿っているのです。

最近は、床の間のない和室も増えているようですが、床の間のない和室に入ると、なにか物足りなさを感じます。床の間は、単なる書画や生け花を飾るためだけのスペースではないからです。部屋に中心となる重要な場所を生み出し、和室独特の雰囲気をつくりだします。室内にゆとりを与え、生活に潤いをもたらしてくれる特別の場とも言えます。床の間があることで引き締まる空間は、時にはおもてなしの空間になり、説教部屋にもなり、上座下座のルールや座敷でのマナーの教育の場にもなるでしょう。個室の中でもこれだけ意味のある部屋というのは、今なお残る和室だけです。

床の間は、形式上いろいろな名前があります。一般的な「本床（ほんどこ）」と呼ばれる形式ものから、段差がなく畳面と同じ高さの地板だけを設けた「踏込床（ふみこみどこ）」など、他にも色々な形式があります。和室の構成要素の中でも最も伝統的な法則があるため、格式が重要視され非常に奥が深いのです。四季を演出し、お客様を迎える「顔」でもあるため、トコには掛軸が掛けてあり、香炉・花入れが置かれ、違い棚には飾り物があるのが本来の形です。しかし、この形式や法則を全て理解しようとすると、大変なものです。お茶やお花、掛け軸の知識など膨大なものになりますので、まずは最低限の和室の心さえ理解しておけばよいことです。

大切なのは、おもてなしをする気持ちです。来客がある時に部屋を掃除する気持ちの延長で、気持ちよく過ごしてもらうための空間づくりをするのです。そのために、季節の花や、掛け軸が存在します。花に関しては、来客時でなくとも日々の暮らしの中で最も身近に取り入れられることですので、まずは、季節の花を知っておくことをお勧めします。

季節の花を知る

室町時代、書院造りという現在の日本家屋の原型となる建築様式の床の間における飾り、「たて花」がいけばなの始まりです。江戸時代になり豪華で大型の「立花」が確立され、町人達の間では数奇屋造りの小さな床の間に、より自由で日常的な「投げ入れ花」がもてはやされるようになり、それを元に「生花」が誕生します。さらにこの後、一般の住宅にも応接間を取り入れる事が流行し、これに合うような「盛花」や「投げ入れ花」が脚光を浴びました。このようにいけばなはその時代の住宅事情に伴って新しい広がりを生み出して今日に至っています。

花道の世界は突き詰めれば、流派により厳しい定めがあったり、自由な解釈による創作は一般にはされない場合があります。一般住宅の和室に花を活けるのに、流儀花のように花型はありませんから、せめて季節を感じられるものを選びましょう。花の性質や形を見ながら生ける人のセンスで生ければよいのですが、掛物とのバランス上いくつかの注意点があります。掛物の位置を定めるときには、床の間から畳一枚ぐらい下がって座ったところを鑑賞の位置として、そこから床の間全体のバランスを見て定めます。掛物を壁にピッタリとつけて飾ると、壁の湿気で掛物が傷み、また壁も痛むので6～9mmほど壁から離して掛けます。掛物を一幅（いっぷく）だけ掛ける場合は、巻緒はトコの下座の方へ引き寄せます。掛物の書や絵は、季節にあったものを掛けますが、花やその他の置物と競合するような題材は避けるのがポイントです。

室礼の文化を現代のインテリアに

世界の中でも日本人ほど、季節の移ろいを生活の中に取り入れて上手に付きあってきた民族はいないと言われています。季節感を住環境に取り入れることを得意とし、床の間の花や掛け軸を来客によって替えたり和服の柄と合わせたり、視覚的にも涼しさや温もりを感じる工夫が、住まいの随所で見られました。住宅の洋風化が進むことで、季節の移り変わりを室礼で楽しむ文化が衰退している可能性があります。あわただしい時代で、昔のように室礼に時間が取れないかもしれませんが、日本人独特の感性を磨きながら、豊かな生活を味わいたいものです。

「しつらえる」という動詞が「用意すること・準備」の意味をもっていることを考えあわせると、たとえば、年の瀬の慌しさの中でしめ縄飾りや鏡餅・門松・床の生花などを買い揃え、お正月を迎える準備をするなら、「お正月をしつらえている」と言えるわけです。わたしたち現代人も、ちょっとした飾り付けを通して、「季節の工夫」という日本の伝統を楽しみながら、インテリアに活かすことができるのです。

和室に合う季節の花の一例

1月
・フクジュソウ
・センリョウ
・コチョウワビスケ
など

2月
・モクレン
・ツバキ
・ウメ
など

3月
・サンシュユ
・ナノハナ
・レンギョウ
など

4月
・ツツジ
・ユキヤナギ
・ハナミズキ
など

5月
・シャクヤク
・アヤメ
・ヤマボウシ
など

6月
・アジサイ
・フトイ
・ホタルブクロ
など

7月
・ヒオウギ
・ナツツバキ
・ツユクサ
など

8月
・ナデシコ
・サワキキョウ
・クズ
など

9月
・キキョウ
・オオケタデ
・ナツハゼ
など

10月
・リンドウ
・フジバカマ
・ウメモドキ
など

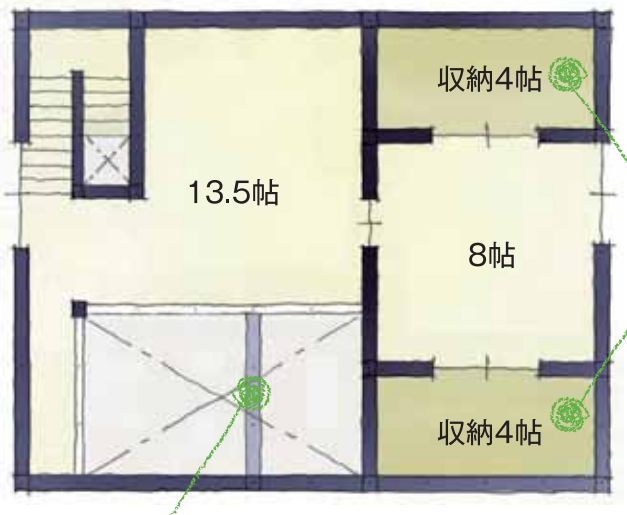
11月
・サルトリイバラ
・シロワビスケ
・ヤマボウシ紅葉
など

12月
・ソシンロウバイ
・ナンテン
・ダイカグラ
など

見本

キニナルマドリ　趣味を楽しむ家

HABITA Good リビング



2階

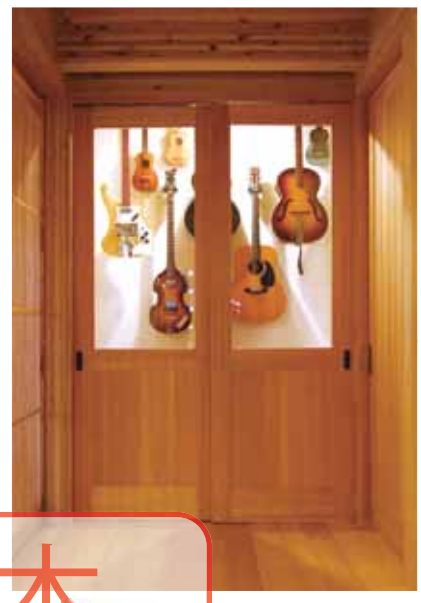
夫婦それぞれがウォークインクローゼットを持つという贅沢。

吹き抜けの梁は、愛猫のためのキャットウォーク。リビングから見上げれば愛らしい姿が。

玄関からすぐに目に入るショウスペースには自慢のコレクションを飾って。

洗面所から繋がる収納には床下収納庫も。

1階



ゆったりとリラックスできる開放的なリビング。吹き抜けを利用してコレクションを飾ることも。

見　本

■ 建築場所：滋賀県近江八幡市　■ 敷地面積：62.2坪
■ 建物面積：1階20坪　2階16.5坪　延べ36.5坪
■ 建設企業：HABITA Good リビング

くらしのニュース

梅雨を乗り切る、住まいの湿気対策

今年も雨の季節となりました。どんよりとした空に気分も滅入ってしまいがちですが、住まいの方もどんどん湿気がたまり、放っておくと気が付いたら家じゅうカビだらけ、ということにもなりかねません。憂鬱な梅雨を快適に乗り切るために、住まいの湿気対策をご紹介します。

第一は空気の入れ替え

カビは適度な湿気と温度、そして栄養のある所にはどこでも繁殖し、温度25～30℃、湿気70%以上になると急激に発生しやすくなります。また、建材や仕上げに使われる接着剤や糊を栄養分として湿気のある場所に発生するので、まず通風をよくすることが重要です。こまめに窓を開けて換気を行うよう心がけましょう。

密閉された部屋の中には湿気やカビだけでなく、ほこりやウイルス、またキッチンから水蒸気となった調理の脂分やにおいの分子なども漂っています。やがてそれらは結合して部屋に沈殿し、キッチンや家具の汚れへと変化します。換気は健康のためだけでなく、家の中に汚れがたまるのも軽減してくれる効果があるのです。日中外出していてなかなか難しい、という方は朝起きた時と夜寝る前の1日2回の換気を習慣とするといいでしょう。

押入れに気を付けて

部屋の換気を心がけても、ウォークインクローゼットや、押入れ、納戸などは扉がついて密封されているため、空気がよどみ、湿度が高く、カビが生えやすくなっています。カビが繁殖すればしまっていた衣類やバッグにも移り、またそれが虫食いの被害を呼ぶという恐ろしい連鎖が起こります。

まず衣装ケースなどは直接しまわずに、すのこを一枚敷いたり、壁から少し離して置くなど空気の通り道の確保が大切です。丸めた新聞紙をいくつか入れておくのも効果的です。新聞紙には適度に湿気と匂いを吸い取る効果があります。汚れ防止も兼ねて、下駄箱の底に敷いておくのもお勧めです。そして気が付いた時に両端の戸を少し開けておき、空気の入り口と出口をつくっておきます。

風通しの悪いこういった場所に見られる緑色のカビ掃除には、消毒用エタノール（アルコール）が最適です。エタノールは揮発性が高く、カビなどの菌や一部のウィルスを強力に殺し、また再発の予防効果も高いのです。エタノールはボロ布などに染み込ませ、カビを拭き取った布は再利用せずにそのまま密封して捨てます。カビは絶対に「水拭き」しないようにしてください。

夏を向かえる準備を

梅雨が明けたらいよいよ待ちに待った夏です。気持ちよく夏を迎えるために、少し大変ですが畳を上げてためこんだ湿気を逃がしたいものです。畳を上げる際には、畳の角のすき間にマイナスドライバーなどを差し込んで、少し上がったら手で持ち上げて下さい。また敷き込む時に間違えて配置しないよう、チョークなどで目印をつけておきましょう。干す際は、畳の表面が焼けないよう裏側に日光が当たるようにし、しばらくおいてからたたいてほこりを出しましょう。干す場所のない場合には、たたみを上げて下にびんや缶などを置き、たたみの裏面に風を通すだけでも効果があります。

さらに部屋全体に除湿機などをかけて空気を乾燥させると、防カビや防ダニの効果も得られます。畳をあげた床と畳の裏にも掃除機をかけて、ほこりを吸い取っておくと効果的です。たたみの表替えは10年を目安に行い、初回は裏返して使用し、2回目は畳表を取り替えましょう。

HABITAに合う家具

出居民家のインテリア

新しい家での生活に向けて、インテリアを一新する方も多いでしょう。映画のようなリビングに、憧れていたあの家具達で揃えて…、様々な夢が膨らみます。家具やファブリックの組み合わせも大切ですが、まず気を付けたいのは「その部屋に合うか」どうかです。

マンションなど、真っ白なビニルクロスに囲まれている無機質な空間と、古民家のように存在感のある梁、柱が見えて自然素材を感じる空間とでは、インテリアの雰囲気が随分変わります。真っ白な空間ではどんな家具でもよかったものが、木材が「現し」の空間ではコーディネートがなかなか難しく感じられることもあるでしょう。空間自体に木質感が強いため、ハンドメイド調やナチュラルテイストが強すぎるものは意図しない山小屋風に陥ってしまうこともあります。木と上手に付き合うインテリアとはどのようなものなのでしょうか。HABITAのモデル「出居民家」のインテリアを例にご紹介します。

スーパーレジューラ　ジオ・ポンティ作　199,500円～

軽やかな印象を与えるダイニングチェアはイタリアの建築家ジオ・ポンティ作の「スーパーレジューラ」。イタリア語で「軽い」という意味を持つこの椅子は、わずか1.7kgと超軽量。椅子の機能と美を極限まで追求した作品として、発売以来半世紀近く愛されているロングセラー商品です。一見とてもシンプルに見えますが、実はすみずみまで「こうでなくてはいけなかった」という確固たる理由に支えられています。たとえば、細い脚は底辺が18mmの三角形になっています。これは「角材よりも細くて軽くて丈夫な形」を研究してたどり着いたカタチです。理想のカタチと機能をとことん模索するデザイナーの美意識と職人技が融合し、控えめながらきちんと存在感のあるフォルムが誕生したのです。ちなみに丈夫さをテストするために、アパートの4階から下の通りに放り投げたという話も有名です。椅子は壊れるどころかポンッと弾んだとか。

見本

リビングのソファは「マラルンガソファ」。イタリアのプロダクトデザイナー、ヴィコ・マジストレッティの代表作です。最大の特徴は、フレキシブルバーによって実現した無段階可動式の背もたれです。他の可動式のものと違い、カチカチといった音がせず、なめらかな動きが特徴です。背もたれ部分の移動でいろいろな表情を楽しむことができ、また様々な姿勢でくつろぐことができます。「日本の座布団」を模したクッション性の高いシート部分の構造は、ほかに類を見ないやわらかさと座り心地を実現しています。マラルンガは、最高の座り心地と評価が高く、1975年発表以来ソファの最高のステータスとして現在でも愛用者が多くいます。その優れた品質とデザインが認められ、ニューヨーク近代美術館に永久保存されています。

マラルンガソファ　ヴィコ・マジストレッティ作　934,500円～（二人掛け）

403 住まいのオーダーメード館

ちょいの間　小和座

いつでもどこでもすぐに和室にできるのが「ちょいの間 小和座」です。

大きさは400×800mm、厚さはわずか15mm。しかも1枚13kgと超軽量。小さいけれど畳表には中国産の極上天然い草（有機栽培）を使用。床には調湿性NO.1、高級たたみの代名詞とも言える「天然ヤシしゅろ」を使用しています。

小和座はわずか15mmと薄いのでバリアフリーの床にも簡単に敷けます。しかも、ノンスリップの本麻シートの使用で畳自体がすべらないので安心です。持ち運びが楽に出来るので、いろいろな生活シーンに合わせて気軽に使える世界初のパネルタッチの畳です。

リビングの中の和室コーナー、お子様の遊びゾーンそしてアウトドアでも使い方はお客様のアイデア次第です。使わない時でも邪魔にならず簡単に収納できることも重宝されている理由です。

材質：有機栽培い草、天然ヤシしゅろ
サイズ：厚さ15×縦400×横800mm
価格：¥18,900／8枚組
403掲載商品No. G-0095_001

住まいのオーダーメード館 403
東京都新宿区新宿1-2-1-1F
http://order403.com/
403　検索

Weekly HABITA
www.habita200.jp/
第77号 2012年 6月　発行:MISAWA-international株式会社　〒163-0704 東京都新宿区西新宿2-7-1　TEL.0120-420014
100円